

演題番号：A7

管内酪農家における乳房炎ワクチン接種効果

○大植健平

滋賀県農業共済組合

1. はじめに：臨床型乳房炎は、生産乳量の減少や乳質の低下、重症化により廃用・死亡事故に至ることが多い。今回、管内酪農家にて乳房炎ワクチンを導入したので調査した。

2. 材料および方法：対象は管内酪農家(搾乳牛200頭)、フリーバーン牛舎、TMR給与、ミルクングパーラーで1日2回搾乳、異常乳はオンファームカルチャー(以下、OFC)で検査、敷料は自家産戻し堆肥、乳房炎ワクチン(スタートバック[®] 共立製薬 以下、ワクチン)は分娩予定日50日前、10日前、分娩後45日の計3回投与。調査期間は2015年4月から2018年3月を接種前、2018年4月から2021年3月を接種後とした。農家の聞き取りからOFC検査頭数を調査した。牛群検定成績から乳脂率、乳蛋白率、無脂固形分率、平均体細胞数および平均乳量を調査した。診療簿から臨床型乳房炎の診療件数、平均治療回数および死廃頭数を調査した。

3. 成績：OFCの検査頭数は接種前1857頭から接種後1314頭に減少した。うち大腸菌群は372頭(20.0%)から370頭(28.2%)に増加した($P < 0.05$)。CNSは217頭(11.7%)から122頭(9.3%)に減少した($P < 0.05$)。診療簿より、臨床型乳房炎診療件数は288頭(37.3%)から212頭(29.4%)に減少し

た($P < 0.05$)。うち大腸菌性乳房炎は84頭(29.1%)から95頭(44.8%)に増加した($P < 0.05$)。死廃頭数は16頭(19%)から8頭(8.4%)に減少した($P < 0.05$)。平均診療回数に有意差はなかった。牛群検定成績より乳脂率、乳蛋白率、無脂固形分率に有意差はなかった。平均体細胞数(千/ml)は 304.5 ± 62.5 から 341.9 ± 64.6 に増加した($P < 0.05$)。平均乳量(kg)は 30.4 ± 1.3 から 29.3 ± 1.4 に減少した($P < 0.01$)。

4. 考察および結語：本調査では、接種後にOFCでの検査頭数とCNS検出の減少、診療簿での診療件数と死廃頭数が減少したことから、乳房炎対策のひとつとしてワクチン接種は有効であると考えられた。本調査期間中で、蹄病等の運動器疾患が接種後期間で増加しており、平均体細胞数増加と平均乳量減少の一因と考えられた。乳房炎は様々な要因により発症することから、多くの衛生対策が必要であり、今後は牛舎環境の調査も必要と考えられた。